

2023. 6. 5

< 配信枚数1枚 >

報道関係者 各位

世界で唯一の「年縞」研究を展示する福井県年縞博物館
博物館では3例目「科学ジャーナリスト賞 2023」特別賞を受賞
贈呈式開催にあわせて中川毅古気候学研究センター長の対談映像を公開

立命館大学 総合科学技術研究機構 古気候学研究センター長 中川毅教授の水月湖における年縞(ねんこう)研究に関する常設展示を行っている、福井県年縞博物館(所在地:福井県若狭町、吉田昌弘館長)が、日本科学技術ジャーナリスト会議(JASTJ、室山哲也会長)が選定する「科学ジャーナリスト賞 2023」において、特別賞を受賞しました。博物館としての受賞は3例目となります。

本賞の贈呈式は、2023年6月3日(土)に、日本プレスセンタービル(東京都千代田区)で開催され、吉田昌弘館長(写真後段中央右)、山根一真特別館長(後段中央左)が式典に出席しました。

今後の受賞においては、年縞の研究を深めるために創設された世界で唯一の博物館として、見学者に年縞の科学的な意義をわかりやすく伝えていること、気候変動などの地球環境の課題を考えるにあたり、博物館の存在意義は大きいことが受賞理由として挙げられています。

授賞式当日は、白川英樹選考委員(筑波大学名誉教授・2000年ノーベル化学賞受賞)より、年縞博物館の紹介と講評が行われました。

< 中川教授のコメント >

年縞博物館は湖の底の泥だけにフォーカスした、とてもマニアックな博物館です。

決して万人受けするとは言えない、その学術的な価値と魅力を感じ取り評価していただけたことを、とても嬉しく思います。



受賞を記念して、中川教授がフェローを務める立命館先進研究アカデミー(RARA)のWebサイトで、北場育子准教授(古気候学研究センター副センター長、RARA アソシエイトフェロー)との対談映像を公開しました(<https://rara.ritsumei.ac.jp/updates/2613/>)。

< 水月湖年縞について >

2006年に中川教授(当時ニューカッスル大学(英国))を中心とした国際チームが、福井県水月湖においてボーリング調査を実施し、連続した年縞(ねんこう)の採取に成功しました。その後水月湖年縞は、考古遺物などの年代を測る「放射性炭素年代測定法」の補正に利用され、地質学的な時間に定義を与える国際標準の「年代のものさし」として、2013年度版 IntCal(較正モデル)に採用されています。

< 立命館大学と福井県年縞博物館について >

福井県年縞博物館は、2018年に開館した年縞をテーマにした世界初の博物館です。約7万年の歳月をかけて積み重なった45mにおよぶ水月湖年縞の実物が展示されているほか、中川教授をはじめとした研究チームの取り組みが紹介されています。本学と福井県は2015年に「福井県と立命館大学との年縞を基にした研究等に関する基本協定書」を締結し、開館当初から共同研究を進めています。

本リリースの配布先: 京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ
文部科学記者会

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当: 岡本

TEL.075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumei.ac.jp